



2026.8 No.125

- ・エゾシカによる農林業被害防止に向けた各種取組（保全課）
- ・幌加内町との森林整備協定による森林整備推進の取組
（空知森林管理署 北空知支署）
- ・こんにちは森林官です！（羅臼森林事務所）
- ・センター通信（常呂川森林ふれあい推進センター）
- ・若手職員のコーナー（檜山森林管理署）

エゾシカによる農林業被害防止に向けた各種取組

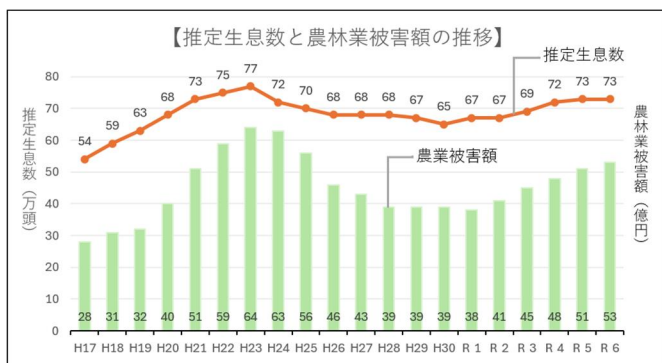
保全計画部 保全課

北海道森林管理局は、エゾシカによる農林業被害の軽減に向け、エゾシカの捕獲事業を実施するほか、市町村との連携による捕獲、狩猟者への安全の呼びかけや利便性向上に取り組んでいます。

【エゾシカによる被害の現状】

エゾシカは、推定生息数及び農林業被害額がピークに達した平成23年水準に再び近づきつつあり、農林業や生態系への影響が懸念されています。

令和6年度の推定生息数は73万頭で、令和5年度の推計と同水準で推移しています。一方、農林業被害額は52.8億円となり、令和5年度と比較して1.3億円増加しました。被害額は令和元年度以降、増加傾向が続いています。



全国的にもニホンシカによる森林被害は深刻化しており、下草の食害によって森林の表土がむき出しになるなど、森林本来の機能が損われる事例が各地で生じ、深刻な状況となっています。北海道でも生息密度の高い地域では同様の状況がみられています。

さらに、線路への侵入や列車との衝突、車両との交通事故も増加しており、社会生活への影響も拡大しています。

こうした状況を踏まえ、本年5月、北海道では捕獲目標の達成に向けた捕獲体制や被害防止対策を強化するため、全国初となる「北海道鳥獣被害対策タスクフォース」が設置されました。北海道森林管理局においても、関係機関と連携しながら効果的な対策に取り組んでいます。

【エゾシカはどこにいるのか】

捕獲の効率を高めるためには、エゾシカの行動特性を理解することが重要です。関東以西のニホンシカが比較的狭い範囲で活動するのに対し、エゾシカは、森林と農地の間を季節ごとに移動して生活しており、中には100kmも移動する個体も確認されています。

エゾシカは基本的にオスとメスが別々の群れで行動します。夏季は牧草地や農地周辺で採食し、秋から冬にかけては、オスが複数のメスを伴い、針葉樹林などへ移動します。冬季は森林内でササや樹皮を食べながら春を待ちます。この冬季の生息地は「越冬地」と呼ばれ、多くの個体が奥地の国有林へ集まることから、越冬地での効率的な捕獲が重要となっています。

【森林づくりとしての捕獲事業】

エゾシカは森林内で自然に育つ若木も採食するため、将来的な森林構成の変化や森林の健全な育成への影響が懸念されています。

北海道森林管理局では、森林づくりの一環として森林整備事業によるエゾシカ捕獲を実施しています。

捕獲方法としては、囲いワナやくくりワナのほか、林道を通行止めにしたうえで、餌による誘引を行い、モバイルカリング（車両内外から銃器により捕獲する方法）なども行っています。



【市町村等との連携による捕獲】

エゾシカの越冬地が把握されていても、積雪等により捕獲者が現地へ到達できない場合があります。この場合、市町村との協定に基づき、森林管理署が林道除雪や餌による誘引を行い、市町村が捕獲を実施する連携捕獲に取り組んでいます。

また、北海道が設定する推進期間において、市町村が実施する一斉捕獲に対し林道除雪の協力を行うほか、市町村単独で行う有害鳥獣捕獲では、フィールドの提供やワナの貸出しなどの連携した取組を行っています。さらに、市町村、事業請負者及び国有林の三者による協定を締結し、土日・休日等を活用した安全かつ効率的なエゾシカ捕獲にも取り組んでいます。

【情報通信技術の導入によるエゾシカ対策】

捕獲事業の省力化及び効率化を図るため、様々な情報通信技術を導入しています。IoT自動撮影カメラによる捕獲状況の確認や、AI画像解析によるエゾシカ捕獲候補地の選定を行っています。また、大型囲いワナではICT捕獲システムを活用し、遠隔操作による頭数確認と捕獲を行っています。さらに、ジビエ活用が可能な地域においては、囲いワナによる生体捕獲にも積極的に取り組んでいます。



【狩猟について】

日本に生息するニホンシカは、7つの地域亜種が存在し、その一つであるエゾシカは体重が130～150kgにも達する国内最大級のシカです。

その大きさから狩猟対象として人気が高く、毎年多くの狩猟者が道外からも北海道を訪れます。

狩猟のため国有林に入林する際は、事前に手続きが必要です。北海道森林管理局では、従来の紙による申請に加え、個人・団体向けのオンライン

申請を導入し、狩猟者の負担軽減を図っています。

また、本年度からは、捕獲向上のため銃猟立入禁止区域の一部の区域において、年末年始（12月29日から翌年1月3日まで）の開放（可猟）を行うこととしています。

【狩猟による事故防止に向けて】

一方、道内の多くは自由に狩猟が行われるため、毎年猟銃による事故が発生しています。

国有林には、森林整備作業従事者やレクリエーション利用者など、多くの人々が入林しています。

猟銃による事故は、被害者はもとより加害者にとっても一生を左右する重大な影響を及ぼすため、事故防止対策は極めて重要です。このため、狩猟者向け安全講習会・呼びかけや、森林内に立ち入る人々や狩猟者の狩猟事故防止のため銃猟立入禁止区域の設定とゲートによる入林規制、注意喚起旗の設置など、安全対策を実施しています。

また、スマートフォンで利用できるGPSナビゲーションでは、通信「圏外」でも銃猟立入禁止区域図と現在地を確認することができ、狩猟計画の立案や安全確保に役立てられています。



スマホ等を使ったGPSナビゲーション

- ・ 猟場までのナビゲーションに利用できます。
- ・ 国有林・道有林の位置を見ることができます。
- ・ 法的規制（鳥獣保護区等）、銃猟立入禁止区域、林道通行規制などを見ることができます。
- ・ 現在地が表示され、方位、地形、道路などの情報を見ることができます。

<手順>

- 1 アプリ「Arc GIS Field Maps」をインストール
- 2 アプリのログインをスキップ
- 3 マップのダウンロード（Wifi環境下がお勧め）

使用するときは、携帯電話通信圏内でアプリを起動

詳しい手順
はこちら→



【おわりに】

北海道森林管理局では、今年度の重点取組事項として「森林病虫獣害への対策と優れた自然環境の保全」を掲げています。

「エゾシカによる森林被害の軽減」「ヒグマ被害防止」「ナラ枯れ被害拡大防止」を3本柱として、今後も市町村等と連携した取組を進めていきます。

地域課題の解決に向けた取組

幌加内町との森林整備協定による 森林整備推進の取組

空知森林管理署 北空知支署

【はじめに】

空知森林管理署北空知支署は、深川市、沼田町、北竜町、雨竜町および所在する幌加内町の1市4町にわたる約6万7千ヘクタールの国有林を管理しています。一方、北空知地域の市町では市町有林の面積が比較的小さく、まとまった森林整備を進めにくいことから、これまで国有林との連携による取組はあまり進んでいませんでした。

このような中、幌加内町から「国有林に隣接する町有林の整備を進めるため、国有林内に作業道を開設したい」との相談があり、森林整備協定の締結に向けた検討を開始しました。協定締結による路網の相互利用など、双方のメリットを生かした取組について、現地踏査や振興局を交えた協議を重ねた結果、令和6年12月に「幌加内町ほろたち地域森林整備推進協定」を締結しました。



細川幌加内町長と北空知支署長による協定締結式

【地域の森林の状況・課題】

森林整備協定の対象となる幌加内町ほろたち地域には、森林整備を必要とする町有林が約20ヘクタールあります。しかし、木材を搬出するための林道が整備されていないため、間伐等を実施しても伐採木を輸送トラックで搬出できない状況がありました。その結果、適切な間伐等が行われず、立木が過密となり、林内が暗く混み合った状態となっています。

また、隣接する国有林の奥地にも間伐等の施業が必要な人工林が多く存在しますが、複雑な地形

や急傾斜地のため、山腹部への路網整備が進んでいません。

このように、町有林と国有林の双方において路網不足が森林整備の大きな制約となっており、幌加内町ほろたち地域全体の森林整備の停滞を招いています。



(上)幌加内町の民有林林道
「長留内ほろたち線」起点の看板
(下)「長留内ほろたち線」から
国有林への分岐点。
(右側が国有林へ接続予定)



【協定締結による相乗効果】

現在、町有林側では国有林への接続を予定している地点までの作業道整備が完了していますが、路網全体としては整備途上の段階です。

今後、町有林と国有林が相互利用できる路網が整備されることで、町有林の森林整備が促進されるとともに、木材の効率的かつ円滑な搬出が可能となります。さらに、町有林側の林道から国有林へアクセスできるようになれば、地盤の安定した尾根筋を活用した効率的な路網ルートを選定が可能となり、これまで整備が困難であった国有林奥地の森林整備にもつながります。この森林整備協定は、町有林と国有林の双方にメリットをもたらす、地域全体の森林整備を推進する大きな効果が期待されています。

【今後の地域林業を展望する】

今回の協定締結は、北空知支署における2例目の森林整備協定となりました。

今後も林政連絡会議や市町村林務担当者との意見交換・情報共有を通じて地域の課題や現状を把握しながら、国有林が協力できる各種制度や取組メニューを提案し、国有林と民有林が連携した「民国連携」の森林づくりを推進していきます。

こんにちは 森林官です！



根釧東部森林管理署 羅臼森林事務所

森林官 上西 成隆

【地域の紹介】

羅臼森林事務所が所在する羅臼町は、北海道東部の知床半島南東部に位置する人口約4千人の町です。漁業が盛んで、昆布やサケ、エゾバフンウニ、タラをはじめとする様々な海産物が水揚げされています。

また、観光船による自然観察も人気で、夏にはクジラやイルカ、シャチ、冬には流氷やオオワシ、オジロワシなどを観察することができます。羅臼森林事務所周辺にもオオワシやオジロワシが飛来し、身近で見ることができます。



展望台からの眺め

【森林事務所の概要】

羅臼森林事務所が管轄する国有林野面積は約2万9千ヘクタールで、そのうち約2万2千ヘクタールが世界自然遺産「知床」の登録区域となっています。

管内の人工林は約300ヘクタールほどで、98%以上が天然林です。知床森林生態系保護地域に設



熊越の滝

定され、原生的な自然環境の維持・保全に取り組んでいます。

管内には、熊越の滝や羅臼湖など、多くの観光スポットがあります。

【森林事務所の業務】

羅臼森林事務所では、山地災害の未然防止を目的とした林野巡視や境界の保全管理業務のほか、森林資源調査などを実施しています。

国有林と海の距離が近く、森林の状況が漁業にも大きく影響することから、台風や大雨の後には河川の濁りの状況を確認しています。さらに、世界遺産地域内においてサケ科魚類の自由な移動を確保するため、切り下げを行ったダムの状況確認も行っています。このほか、羅臼町や環境省などの関係機関と連携し、羅臼岳や羅臼湖遊歩道等の整備も実施しています。



羅臼湖歩道整備

【最後に】

羅臼森林事務所は、森林整備事業が比較的少なく、他の森林事務所とは異なる業務が多いのが特徴です。また、世界自然遺産「知床」の登録区域へ車でわずか5分ほどで行くことができる環境で働けることは、なかなか得難い経験です。

これからも、人と野生動物との共生に考慮しながら、地域の自然環境の保全と適切な森林管理に取り組んでいきます。



常呂川森林ふれあい推進センター

森林環境教育 周りの助けによって

常呂川森林ふれあい推進センター（以下センター）では、現在2名体制で業務を行っています。子供たちに、オホーツクの豊かな自然環境や森林資源の大切さを少しでも感じてもらい、森林とふれあうきっかけづくりにつなげたいとの思いから、多くの方々のご支援をいただきながら、新たに北見市内の2つの小学校で森林環境教育のお手伝いを行いました。

北見市教育委員会が取組を広げてくれました

これまでセンターでは、北見市内の小学校における森林環境教育の支援として、常呂小学校の「ワッカネイチャースクール」に網走南部森林管理署と取り組んできました。また、独自活動として、森林ボランティア「オホーツクの会」と共催し、「オホーツクの森・子ども探検隊」を実施してきました。近年は網走中部森林管理署やオホーツク総合振興局にもご協力いただいています。

こうした森林環境教育の取組をさらに広げたいとの思いから、北見市教育委員会に「北見市内の小学校で森林環境教育をお手伝いします。」という内容のチラシの配布をお願いしたところ、趣旨をご理解いただき、教育委員会から市内各小学校へ周知していただけることになりました。その後、相内小学校及び大正小学校からご連絡をいただき、令和7年11月に各小学校を訪問して森林環境教育を実施しました。

小学校では途切れぬ集中力と作品センスに脱帽

相内小学校では、1・2年生14名を対象に「見て、ふれて、思いのままに森の子!?松ぼっくりアート」と名を打



◆相内小学校での一コマ

ち、様々な種類の松ぼっくりなどを使い、グルーガンで自由に組み合わせながら作品を作り上げました。

大正小学校では、1・2年生13名を対象に「見てふれて森の子!?松ぼっくりでツリーアート」を実施しました。大きな松ぼっくりにアカエゾマツの葉をボンドでつけ、その後思い思いの装飾を施した松ぼっくりツリーを制作しました。



◆大正小学校での一コマ

センター職員2名だけでは十分な対応が難しいため、各校で「オホーツクの会」の皆様2名ずつにお手伝いいただきました。子供たちが安全に活動でき、のびのびと自由な発想で作品作りに取り組めるよう環境づくりに努めました。

両校とも、授業は中休み5分を挟んだ3・4時間目に実施しました。子どもたちは作品作りに没頭し、休み時間になっても手を止めようとしないうほどの集中ぶりでした。こちらから「少し休もうか」と声をかける場面もあったほどで、ものづくりに向き合う真剣な姿がとても印象的でした。

また、完成した作品はどれも個性豊かで、見本を上回るような創造性あふれるようなものばかりでした。

今後も多くの皆様のお力をお借りしながら、オホーツクの豊かな森林や自然を身近に感じてもらえる取組や、森林に親しむきっかけづくりを進めていきたいと考えています。

も い 森 林 の 話

第 41 話

檜山森林管理署

佐藤 ひな夢

若手職員のコーナーです

新規採用職員として檜山森林管理署に配属されてから、早くも3年が経ちました。これまでは経営担当として勤務していましたが、今年度から乙部森林事務所へ異動となり、現場業務に携わっています。現場に出る機会が増え、森林管理の難しさや重要性を日々実感しています。

今回は、勤務する中で特に印象に残った「縁桂風景林」について紹介したいと思います。

【縁桂】

縁桂は乙部町字富岡に所在するカツラの巨木で、隣接する2本のカツラが枝で繋がった「連理の木」として知られています。縁結びの木として地域の方々や観光客に親しまれており、美しい自然景観を楽しめるスポットとしても有名です。私も実際に現地を訪れましたが、森林の中に堂々と立つ大きなカツラの木と、その周囲の景観に強く印象を受けました。静かな森林空間の中で自然の雄大さや豊かさを感じることができ、多くの人を訪れる理由を実感しました。



被災前の縁桂風景林

しかし、縁桂周辺は令和7年8月の大雨により大きな被害を受けました。現地では流木の堆積や遊歩道の損壊など、自然災害の影響が今も残っており、改めて自然の力の大きさを感しました。普段何気なく見ている森林も、豪雨などの自然災害によって大きく姿を変えてしまうことがあります。



被害を受けた遊歩道

その現状を見て、森林を維持し管理していくことの難しさを強く実感しました。

また、現場業務を通じて、森林には木材生産だけではなく、土砂災害の防止や水源のかん養、景観形成、観光利用など、様々な役割があることを改めて学びました。特に縁桂のような場所は、地域の方々にとって親しみのある場所であるとともに、重要な観光資源としての役割も担っています。そのため、森林を守り育てていくことは、地域とのつながりを守ることにもつながっているのだと感じています。

森林事務所へ配属されてからは、実際に現場へ足を運ぶことで初めて気づくことも多く、机上だけでは学べない経験の大切さを日々実感しています。巡視の際には季節ごとの森林の変化を目にする機会も多く、自然環境が常に変化していることを感じます。そうした変化を把握しながら適切に森林を管理していくためには、日々の巡視や調査を継続していくことが重要であると学びました。

【最後に】

まだ学ぶことばかりではありますが、今後も現場経験を積み重ねながら知識を深め、森林が持つ多様な役割や重要性について理解を深めていきたいと思っています。そして、地域の方々に親しまれる森林を守っていけるよう、日々の業務に真摯に取り組んでいきたいです。

各地からの便り



「各地からの便り」の詳細は

森もりスクエア

検索

ICT施工現場見学会



【上川中部森林管理署】

7月14日、「ビシャモン沢治山工事」の現場において、ICT施工に使用しているマシンガイダンス建設機械及びチルトローテータの見学会を開催しました。使用者は、今までは機械を掘削箇所の正面に移動させる必要があり、掘削方法等を考えながら施工していたが、チルトローテータは、ほぼ移動することなく、掘削から法面整形まで行えるため、非常に便利な機械だと話がありました。上川中部署では今後も治山事業の技術向上に努めていきます。

陸別小学校の森林教室を実施しました



【十勝東部森林管理署】

7月7日、陸別小学校の児童11名と教員2名を対象に森林教室を開催し、遊歩道散策や枝打ち体験を行いました。散策中、ミズナラの樹皮を削り、聴診器を当てて木の中を流れる水の音に耳を澄ますと、児童たちはわずかな音にも耳を澄ませ、「聞こえた！」と笑顔が見られました。枝打ち体験では、枝打ち方法などの説明後、職員が児童一人ひとりに付き添い、作業を行いました。太い枝を切る際は職員の補助を受けながら、最後まで真剣に取り組む姿が印象的でした。

働く自分を想像しよう 岩見沢農業高校生が 空知森林管理署で インターンシップ実習



【空知森林管理署】

空知森林管理署では岩見沢農業高等学校(森林科学科)2年生5名を対象に、6月30日から3日間インターンシップ実習を実施しました。本実習は同校がキャリア教育の一環として実施し、社会人として必要な資質や態度を養うことを目的としています。森林の現況把握調査の体験や大型機械「グラップル」の作業や治山ダムなどを見学しました。空知署では、今後も地域の学校と連携しながら、次世代の森林・林業を担う人材育成に積極的に取り組んでいきます。

ひらやま&天狗岳 登山安全祈願祭及び 登山道パトロール



【網走西部森林管理署】

ひらやま(標高1,771m)、天狗岳(標高1,553m)は、遠軽町内の代表的な山で、多くの登山客に親しまれています。6月26日、登山安全祈願祭が遠軽町山の家文化村ロッジにおいて執り行われました。安全祈願後、参列の関係者に北海道森林管理局制作の鳥獣登山戯画の豆本を配布しました。皆さん興味深く見てくださり、仲間たちにも見せたいと大好評でした。そして28日に白滝山岳会が実施したひらやま登山道パトロールに同行し、登山道の状況を確認しました。

広報 「北の森林 国有林」 8月号
発行 林野庁北海道森林管理局
編集 総務企画部 企画課

〒064-8537

札幌市中央区宮の森3条7丁目70

電話 011-622-5213

HP <https://www.rinya.maff.go.jp/hokkaido/>



【今月の表紙 アカモノ】

今月の表紙は、北海道共和町の大沼で撮影した「アカモノ」です。

アカモノは、常緑広葉樹の小低木で、5月から7月にかけて白い花を下向きに咲かせます。



今月の表紙